

我が国は世界に誇る長寿社会をいち早く実現し、内外から高く評価されている。これは医学、医療の進歩と共に国民皆保険制度によるところが大きいと言われている。

### 医学と医療の融合（医学医療）

最近の医学、医療の進歩は量的にも質的にも極めて著しい。これまで医学と医療は内容的には学と実務と一応は別々のものとして理解されてきた。しかし遺伝子医学、ゲノム医学の進展、ビッグデータの解析、分子標的治療薬の創生など医学と医療の境界が不明瞭になり、相互の融合が急速に進んで「医学医療」という一つの言葉で示される医の融合体系ができつつある。本文ではこの見地に立ち「医学医療」の語を用いることにする。それは恰もかつて科学と技術が融合して科学技術と言う新しい体系が成立したと同様に理解したいからである。

事実、医学医療の融合によって新しい標的薬、抗体薬、医療方法ならびに機器、ワクチンなどが次々と開発され人々はその成果を享受してより快適な生活を営んでいる。政府も医療イノベーションを大いに推進しており、研究開発に当たっている研究者、技術者の意識も昂まっている。それにもかかわらず人々の医学医療への信頼と期待は必ずしもあまり高くない様に思われてならない。

### 医療の現場

これは何故であろうか。医療の現場を見てみると、医師の不足、専門医の地域的偏在、医師の過重労働、地域医療の混乱などが甚だしく、医療崩壊の声が周期的に繰り返されている。さらに、医療事故、論文不正など医の倫理の欠如が人々を心配させている。

他方、医療費は年々増加して国の財政を圧迫しており、医療費の抑制、患者負担の増額が待ったなしの現実の課題となっている。

また少子高齢化は今後も進行し2025年問題が待ち受けている。団塊の世代は2015年に全て65歳以上となるが、あと10年後、2025年には75歳以上となり同一患者での疾病の複合化が進み医療費の更なる増加は避けられない。

他方、自由診療を認めて混合医療制度への移行が議せられ格差拡大につながるのではとの声もある。

このように医療の現状と近未来は解決すべき課題が山積していて、直ちに医学医療に信頼と期待を持ちたくても持てる状況にはないと言うのが人々の率直な感想ではなかろうか。

### 医学医療はどう対応するか

人々の信頼と期待を得るにはどうすればよいか。それは、まず、医学医療は人々と共に歩むことを明示すること。その上で医学医療の今後の目標は何か、何を以て人々に貢献するかを明らかにして、その方策を示すことにあると思われる。

すなわち、これからの医の使命は、まず人々が高齢化社会を健康で積極的によく生きること、具体的には日本人の健康寿命を延長させることにある。

このためには、いま山積している諸課題を解決する道筋を一つ一つ明らかに示すことにある。

いま、より良い医療のため、医師会、厚労省、支払い団体など関係諸団体が懸命に対応しているが一つ欠けているものがある。それは、医学医療に関する、人々に信頼される権威のある中立的な医学医療のアドバイザー機関が無いことである。日本でも遅ればせながらその様な機関を新設す

ることが肝要と考える。

### **アドバイザー機関[学術会議医学医療研究所]の設置（提言）**

アドバイザー機関は、中・長期的ビジョンに立って人々の健康医療に関する諸課題に適切なアドバイス（提言、助言、報告）を行って人々の健康、医療の増進に寄与するための有識者、専門家による独立機関、医学医療研究所（仮称）を新設する。この機関はその性格から日本学術会議の中に置くことが適当と考えられる。

学術会議はこれまで医学、医療に関して優れた多くの提言を行ってきたが、その性格から、提言の継続性、追跡性に乏しく散発かつ単発性に終わっている。医学医療研究所がその使命を果たすためには、独立性、継続性さらに総合性を備えることが必要で学術会議の中に別枠として設置することが適当である。なおその良きモデルとして米国のナショナルアカデミーズに属する Institute of Medicine（IOM）がある。

最後に、医療関係諸団体は本アドバイザー機関のアドバイス（提言、報告など）を最大限に尊重し之に従うように努力することが求められることは言うまでもない。

### **●プロフィール**

菅野 晴夫

日本学術会議第 15・17 期第七部会員

財団法人癌研究会癌研究所所長

財団法人癌研究会癌化学療法センター所長

公益財団法人がん研究会特別顧問